

親と子

5月14日の「母の日」に続き、6月18日には「父の日」を迎えます。

こうした記念日を機に、感謝の気持ちを伝えたり、久し振りに会いに行ったり、思いを馳せたりする方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで今回は、親子に関する様々な本をご紹介します。



『未来のサイズ』

俵万智／著 角川文化振興財団 2020年

歌壇の最高峰とされる迢空賞を受賞した第6歌集。収められた418首の中には、「10センチ背丈伸びたる息子いてTシャツみんな新品の夏」のように、我が子の成長を詠んだものも多い。実は、書名も子どもにまつわる「あるもの」から採られているので、2013年から2020年までの変化を振り返りながら確かめてみては。

幼い「息子」の様子がたっぷり描かれた第4歌集『プーさんの鼻』（文藝春秋 2005年）、短歌にエッセイと美しい写真が添えられた『俵万智の子育て歌集 たんぽぽの日々』（小学館 2010年）もおすすめ。



『君がいないと小説は書けない』

白石一文／著 新潮社 2020年

編集者から作家に転身した野々村は、パニック障害に悩まされながらも、妻・ことりに支えられて執筆を続けていた。しかし、ことりの母親が倒れ、やむなく別居生活を送ることになってしまう。人間とは、私とは、死とは…。思索にふけっては書き続ける野々村だが、ある日、帰省したはずのことりを見かけて…。

海洋時代小説の第一人者・白石一郎を父に持つ作家による自伝的小説。父親をめぐるエピソードも散りばめられ、ともに直木賞受賞者である親子の関係性までもが垣間見える一冊。

二十代半ばで筆一本の生活に入った父の人生は、私よりもさらに動きのない人生だった。彼こそはただひたすら「起きて、食べて、書いて、寝る」日々を繰り返し続けた人だった。そういう父を息子として観察しながら、

——この人は一体何が楽しくて生きているのだろうか？

と感じていたものだ。

私が小説を書くようになった動機の一つは、父という人のことをもっと理解したいと思ったからだった。

あの親子について知るなら

- 『父 渋沢栄一』
渋沢秀雄／著 実業之日本社 2019年
新1万円札の顔に選ばれた「近代日本経済の父」の素顔とは？
- 『千住家の教育白書』
千住文子／著 新潮文庫 2005年
3人の芸術家（日本画家、作曲家、ヴァイオリニスト）を育てた母が語る日常と転機。

親子関係を見つめ直すなら

- 『なんで家族を続けるの？』
内田也哉子・中野信子／著 文藝春秋 2021年
「ある種の毒親」の元で育った2人が対談。自身の親子関係から家族のあり方を考える。
- 『アドラー式老いた親とのつきあい方』
熊野英一／著 海竜社 2020年
年々難しくなっていく親とのコミュニケーションを上手に取るためのヒントが満載。

多様な親子に触れるなら

- 『サバンナの動物親子に学ぶ』
羽仁進／著 ミロコマチコ／絵 講談社 2011年
絵本作家が描く、生命力溢れる野生動物の姿が印象的。気軽に読んで学べる一冊。
- 『いのちの王国』
乃南アサ／著 毎日新聞社 2007年
ミステリー作品等で知られる作家は動物好き。各地の動物園・水族館を写真入りで紹介。

小説で親子を読むなら

- 『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』
リリー・フランキー／著 扶桑社 2005年
映像化・舞台化された自伝的小説。女手一つで育てられた「ボク」が半生を振り返る。
- 『アンマーとぼくら』
有川浩／著 講談社 2016年
「おかあさん」と沖縄で過ごす3日間。懐かしい場所をめぐるうちに思い出したのは…。

令和5年6月

編集・発行：さいたま市立与野図書館（さいたま市中央区下落合5-11-11）

TEL 048-853-7816 FAX 048-857-1946

